

学校法人白梅学園 白梅学園大学附属白梅幼稚園（東京都）

子どもは、現実の世界で出会った事物や事象、様々な体験に心動かされて、その場らしさや本物らしさを好んで表現しようと試みます。現実の世界でのことを、自らの世界に取り入れる際に、臨場感をかたちづくり、思い入れやアイデアに満ちた独自の遊びを展開していきます。保育者は、子どもたちの現実の世界に対する認識やイメージを理解しようと努め、イメージを広げかたちにするための援助を行います。また、環境や素材の研究を深め、子どもが向き合う世界についての見識を高めようとしています。

「車両をかたどる」（4歳児・5歳児）

【成形】 4歳児・5歳児 2021年4月～2022年7月

電車づくりは車両の成形から始まる。

子どもたちは、電車の特徴を捉えて形や長さ、大きさを工夫していた。

形については、直方体で細長い素材を選び、車両としていた。例えば、積み木やラップの箱、牛乳パック、ティッシュの箱などである。子どもたちは、用途やイメージするサイズに応じて素材を選んでいた。

制作を始めた頃は、箱そのものを電車に見立てて走行させているが、徐々に手を加えていくようになる。

牛乳パックを例にとると、パックの注ぎ口をそのままにするケース（例1）もあるが、注ぎ口を開いてパックの横側から三角に折り込み（例2）、新幹線の先頭車両のようなフォルムをつくり出すケースがあった（例4）。一般車両の場合は、注ぎ口を開き四角く折り畳み、角ばったフォルムをつくり出していた（例3）。

例1
注ぎ口を
そのまま
活用する



例2
横から三
角に折り
込む



例3
四角く折
り畳む



例4
三角に折
り先頭車
両にする
(5歳児)



【塗装】 4歳児・5歳児 2021年4月～2022年7月

無塗装の箱そのものを電車に見立てて遊ぶ時期を過ぎると、子どもたちは塗装をし始めた。西武線や新幹線など特定の路線の車両に似せて塗装する場合と、オリジナルで色づけする場合があった。

ペンで色づけすると箱の模様がうっすら見えてしまう。そこで子どもたちは、紙（例5）やテープなどで箱を覆うようになった。テープについては、カラーガムテープを使用する子もいるが、電車や新幹線のもつ艶感を表現したい子どもはビニールテープを使用していた。無塗装の箱に車両のライン

のみをテーピングすることもあるが（例6）、徐々に屋根や底部を含めて全面を塗装したり、さらには窓やデザインもビニールテープで制作したりした（例7）。その車体がつ質感や艶感を表現しようとして、子どもたちは細部にこだわりを見せた。

一方、自らが乗り込める車両をつくる場合は、塗装面の広さから絵の具を用いることが多く（例8）、塗装に時間をあまりかけなかった。このように目的によって塗装の仕方に違いが見られた。

例5（5歳児）
色画用紙でくるむ



例6（5歳児）
ビニールテープでラインのみ



例7（左：4歳児、右：5歳児）
ビニールテープで車両全体を色づける



例8（4歳児）
絵の具で塗装する



【車輪】 車輪を「内側」につけて動くようにしたい 5歳児 2021年11月

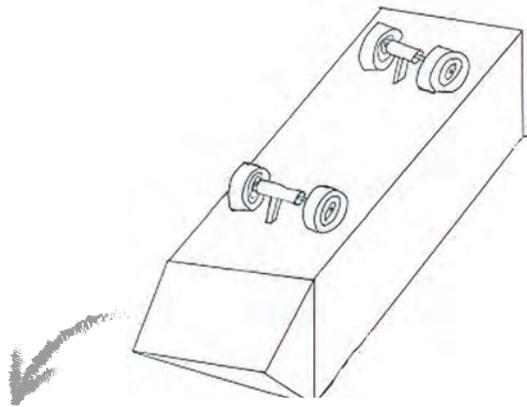
電車づくりの仲間に入ったD児は、仲間と相談して新幹線こまちをつくることになった。

友だちからも教えてもらい、牛乳パックにビニールテープと色画用紙を丁寧に貼った。つくることが得意なD児は本物そっくりの新幹線こまちを完成させた。しかし、浮かない顔をしている。車輪を付けたいのだが、その方法が見つからない。

D児は「本物の電車の車輪って、外じゃなくて中に入っているでしょ？」と本物と同じ外観になるように車輪を内側に付けようとするが、内側に付けると車輪は車体と干渉して回転しない。

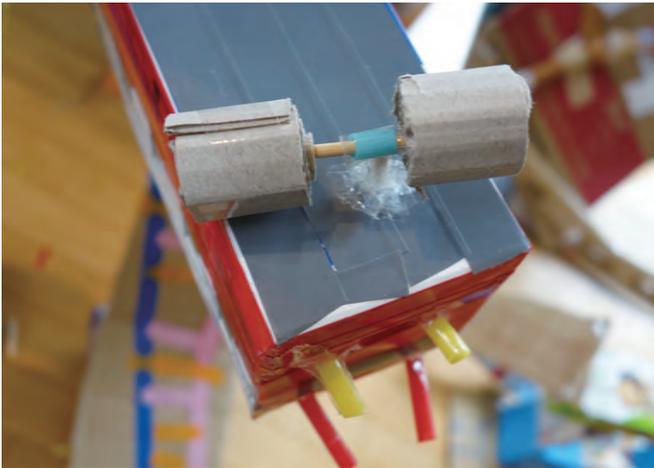
仲間たちも「車輪を内側に貼り付けたら？」「それじゃあ車輪が動かない」「そしたら…」と色々とアイデアをだしてくれるが、なかなかうまくいかない。





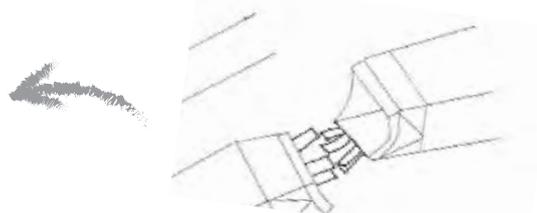
【車輪】 車軸を支える柱をつくる 5歳児 2021年11月

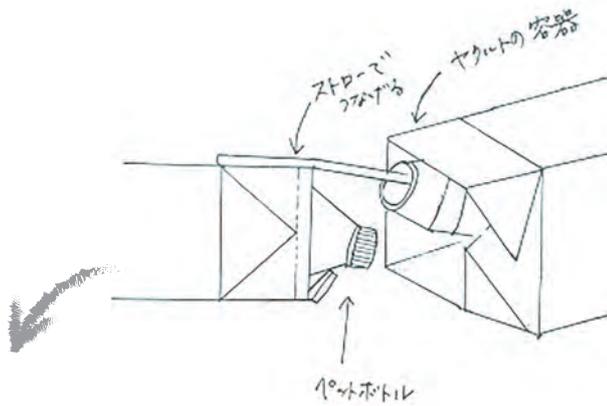
その日の振り返りの時間、D児は困っていることをクラスに話した。すると、仲間から「車輪と接する車体の底面を切り抜く」ことや「車軸の真ん中部分に支柱をつけて車輪を浮かせる」ことなどのアドバイスをもらった。翌日、D児の試行錯誤が始まった。「車体の底を切り抜くのは難しいから、軸をつけてみる」と、支柱を付けて車軸を浮かせるアイデアを採用した。車軸のストローの中央部分を支える素材を探す。ストローを採用したが、車体の重みに負けてクタッと折れてしまう。横で作業をしていたE児が「もっと（支柱が）硬い方がいいんじゃない？」と助言してくれる。そのアドバイスを聞いたD児が次に見つけたのは、短めの割りばしだった。簡単に折れないようにセロテープで慎重に、かつ何度も車軸に貼りつけ、ようやく完成した。車輪は車体の底部に収まり、見事に回転した。



【連結器】 5歳児 2021年4月～11月

電車同士をテープで繋げていたA児に、B児が「ほんとは連結器ってあるんだよ」と話しかけ、何やら2人は工作コーナーで空き箱や素材を探し始めた。2人が取り出したのはビニールテープの巻き芯だった。2つの芯に切れ目を入れ、それぞれを別々の車体に取り付け、芯同士がかみ合うと連結する仕組みだ。7月になると、C児が仲間に加わり、「連結器って、こんな形だっけ？」と問いかける。「え、ほんとは違うけど、いいの」とA児は答えるものの、C児の言葉がきっかけになり、連結器の探究が始まった。





彼らが着目したのはサイズ感だった。ビニールテープの巻き芯やキャップやボタンなど既存の素材をそのまま使うと、牛乳パックの車体に対して連結器が大きくなってしまう。そこで、2人は自作することにした。

まずは、フォークとフォークが噛み合うような装置を紙でつくってみた。しかし、紙なのでしっかりと噛み合わない。

次に考えたのは、ボールジョイントのように、片方の車両の先端にヤクルトの容器を埋め込み、その容器に、もう片方の車両に取り付けたストローを差し込み、結合させる方法だ。この方法も抜けやすいという短所はあるものの、2人で様々な連結器をつくること自体を楽しんでいった。

先生に聞いてみました

* 日常の遊びからの発見

自由遊びにおいて、子どもたちが興味をもったことや思いついたこと、やってみようとして実現しようとしている姿について、園内研修で出し合い、検討してきました。どこのクラスにも共通して遊ばれていた一つが、乗り物や電車にまつわる遊びでした。

日常の、どこにでもありそうな遊びなのに、「なぜ、繰り返し遊んでいるのか」「なぜこんなに楽しんでいるのか」「子どもたちが夢中になっているのは何か」「どこにおもしろさを感じ、意味のある遊びになっているのだろうか」と、遊びについて見方を変えて問い直し、新たな意味を発見することがありました。

* 「思わぬこと」との出会いがチャンス

子どもたちが、うまくいかないことや予想と違うことなど「思わぬこと」に出合ったときは、「チャンス」と考えます。

目の前で起きていることに向き合うことを励ましつつ、「これだ!」という子ども自身の気づきや発見や、仲間と一緒に試行錯誤し「そうか!」「そうだったのか!」という子どもが心を動かす瞬間は見逃さないようにしてきました。

* 園内研修では

園内研修で事例の検討をしていると、担任の思いとはまた違った見方や気づきが出されることがあります。それを互いに共有することは、保育者が遊びを見る目を豊かにし、子どもたちがしていることの受け止め方を広げます。その後の遊びがどう進展していくのか、考える手がかりにもなります。

↓ 論文全文はこちら



臨場感をかたちづくる
一遊びが拓く電車の世界

